

# 多久市手話の会

▼毎週金曜日の定例勉強会で、真剣に楽しく学んでいるみなさん



## 手話で話しましょう!

多久市手話の会(高群薫会長)は昭和54年に活動を始め、34年目になりました。毎週金曜日18時から20時まで、社会福祉会館で定例の勉強会をしています。聴覚障害者の方が先生で、実生活で使われている手話を会員が通訳して勉強します。

会員は、現在20人。主婦や介護士など、いろいろな方が参加しています。毎週の勉強会以外にも、手話の講習会(基礎コース)や通訳奉仕員の講習会に参加して、レベルアップを図る会員もいます。

子どもたちに手話を知ってほしいので、依頼があれば手話教室を行います。高群会長は、「聴覚障害者の方と寄りそい、コミュニケーションをはかる手段として、手話をひろめたい」と会員の募集を呼びかけています。

問 多久市社会福祉協議会 ☎75-3593

### ●連載14● 郷土資料館で学ぶ多久の歴史

#### つくしこと もろたけんじゅん 『筑紫箏の祖、諸田賢順』

7月13日は筑紫箏の創始者、諸田賢順の命日です。毎年、この日は多久町の専称寺で「諸田賢順を偲ぶ会」が行われています。

賢順は1547年(天文16)に生まれ、幼くして父が戦死したため久留米の善導寺に入り、ここで音楽を学んだといわれています。その後、豊後の大友宗麟の庇護を受けますが、宗麟がキリスト教に入信し神社を破壊したため肥前に逃れ、1571年(元龜2)、龍造寺長信に招かれて多久へやって来ました。

賢順が創始した筑紫箏は、それまで雅楽の合奏で使われていた箏を、独奏楽器として確立させた、現代箏曲の起源といわれているものです。

賢順は1636年(寛永13)、多久で生涯を終えました。賢順の墓は多久市重要文化財に指定されており、郷土資料館でも常設展示で賢順が作ったと伝えられる箏などを紹介しています。27ページの「第22回 諸田賢順を偲ぶ会」もご覧ください。



▲賢順作と伝えられる箏(1583年、天正11)

#### 『多久市郷土資料館・先覚者資料館』

開館時間 / 9時~16時

入館 / 無料

休館日 / 月曜日(月曜が休日の場合は開館し翌火曜休館)

■問い合わせ 多久市郷土資料館 ☎75-3002

## 市民文芸

### 短歌

《麦の芽短歌会 互選》

生きるとは身の衰えと寂しさに  
耐えゆくことと老いつつ知りぬ

引き抜けば小さきは小さくそれなりに  
土に根を張る草に脱帽

孤独死のふえる現世重たくて  
両の手広げ深呼吸する

我が家には五歳と二歳の曾孫あり  
十一人の要となりぬ

梅雨入りに追われるごとく草を抜く  
コスモス芽吹く上手の長さよ

緑陰や母の笑顔の静かなり  
ぼんやりと鳥座らせて夏霞

隠せない齢を隠す夏帽子  
保護眼鏡翳して初夏の天体ショー

老鶯の声をつくして惜しみなく  
田中あつ子

川柳  
《多久市川柳会 互選》

《あざみ句会 互選》

### 俳句

半額のさしみを食べて生きてます  
交通の流れに乗って違反する

醜聞を流しスターは名前売る  
節電のゴーヤのれんで過ごす夏

平凡なくらしに感謝して生きる  
東島すみこ

井上 東子

西山 残月

大谷 和

ユキ